

# 第25回 耳原鳳健康まつり開催

## 2000人以上が集う

4月24日の日曜日に、第25回耳原鳳健康まつりを開催しました。前日まで降っていた雨も上がり4月にしては暑すぎるくらいの快晴、2,000人以上の方が来場されました。最近子どもさん向けの模擬店が増え、家族連れでの来場が多くなっています。

オープニングの保育園児のコーラスが始まった時点で、準備していた観客席は満席。立ち見の方がたくさんおられて、事務局の写真が撮れないくらいでした。例年参加されている太鼓や福泉中学吹奏楽部の演奏に加え、今年からはクリニックの利用者さんによるハンドベルの演奏も、会場を盛り上げてくれました。

ハンドベルは「触るのも初めて」という方がほとんどの中、みんなで何度も練習して舞台上で演奏できるまで頑張っていた皆さまの演奏が終わった後の皆さんの笑顔が、大変印象的でした。

熊本の震災直後ということもあり募金箱を設置、多くの模擬店から「売り上げを震災支援の義捐金に使ってほしい」との申し出をいただきました。

近隣住民の方や「毎年楽



ハンドベルの演奏



毎年参加の福泉中学校吹奏楽部

しみにしている」と参加される方が多く、本当に地域に根付いた取り組みになっていることを実感します。今後も30回、40回と続けていけるように内容を工夫していきたいと思っています。(耳原鳳クリニック 大隅)



津波で被害を受けた漁協の施設内部

## 5年経った福島 福島被災地視察

4月15日〜17日に同仁会福島被災地視察が行われ、職員、友の会員合わせて15人が参加しました。お話を伺ったのは久ノ浜、山六観光、小名浜港、小名浜生協病院、宝鏡寺の関係者の方々でした。バスで富岡町や榎葉町、大熊町や双葉町を通過し福島の現状を目にしました。放射線量の高い地域では人の生活は無く、すれ違う車も警察・消防が除染や原発作業の車でし

ました。福島のみなさんの切実な実態を聞かせていただき、政府や東電に対する怒りや不信も感じました。そのなかで、みなさんが私たちに「福島に来てくれてありがとう」と言ってくれたのが心に残っています。

復興はまだ始まったばかりで、私たちが福島を忘れない・風化させないためにも、一人一人できることをしていきます。

今後も福島被災地視察を続けていきたいと思いますので、参加やカンパなどご協力よろしくお願ひします。(事務局 藤原)

### 医療の現場から Vol.9

組織健診課 奥村 雄大

### 健康格差をなくすため 全身管理の外来機能強化

耳原総合病院での患者相談では、以前は高齢の方の医療・介護相談が多かったですが、現在は、若い方の相談も多くなってきたとのことでした。

特に、非正規雇用の方など保険証をお持ちでない若い方の相談が増えてきています。

健診でも受診率において、収入格差がみられま

す。自治体健診でも収入が低い程受診率が低いことが、報告されている自治体もあります。

また、大阪府民のがん検診受診率は、全国に比べて総じて低い状況となっています。

受診率が低い理由として、1位「忙しくて受診できなかった」49%、2位「これから受診するつもりだった」41%、3位「産婦人科には行きづらいから」23%(複数回答)などとなっています。

健康格差をなくし、受診率引き上げのための対策と、受診しやすい体制が必要です。

友の会の地域への取り組みに協力するともに、定期通院者への誕生日健診の位置付けを行い、全身管理を行う外来機能の強化を考えています。

性45位72歳となっています。平均寿命と健康寿命を延ばしていくためには、がん検診受診率を引き上げていくことが重要です。



ます。ありがとうございます。

گران楽しみに  
中区宮園町  
太田志朗(68歳)

おめでとうございませ  
堺区緑ヶ丘北町  
矢谷嬉子(79歳)

耳原総合病院エリア・フルオープンまつりおめでございませ  
北区金岡町  
以倉重有美(14歳)

クロスワードパズル、毎回楽しみにしていま  
これからの発展を  
大津市仰木の里東  
谷口美智子(62歳)

いつも解いています  
いつも遠方まで届けて下さって、ありがとうございます。

遠くになりましたも、婦人科外来の検診は利用しています。安心して受診できます。

新しい病院になり嬉しく思います。一人一人をお互いに大切にできる医療の場として大いに発展を希望します。「とも」のこれからの発展を願います。堺を近くに感じながら読み続けたいと思います。

健康に気を付け  
西区浜寺石津町東  
井堀和彦(87歳)

今年もいろいろな検診を受けまして、少しでも健康に老後を楽しみたいと頑張っております。

声を上げ訴えて  
北区蔵前町  
堀江陽子(64歳)

5月3日の扇町公園での集会に参加しました。高校1年生の女子も訴えています。

自分も子や孫のため、戦争法の廃止をしつかり訴えなければ。



寺坂 加容子